

# 柴田勝家の

# 亡霊は、

# 北庄創成の神



柴田勝家肖像  
(福井市立郷土歴史博物館蔵)

**現** 在の福井城址の南500mに位置するもう一つの城跡、北庄城址。ここを居城とし、主君、織田信長の安土城と並ぶ豪壮大な城郭、北庄城を築いた武将が柴田勝家です。

勝家は、信長の有力な家臣として知られ、越前国を治めた人物です。信長の妹、お市と結婚しますが、賤ヶ岳の戦いで羽柴秀吉に敗れ、天正11(1583)年4月24日、北庄城に火を放ち、お市とともに自害。壮麗な城は灰燼に帰しました。

勝家の命日に関し、いつ頃からか、

こんな伝説が語り継がれるようになりました。毎年、4月24日の夜になると、北庄城本丸跡周辺から福井市内を流れる足羽川に架かる九十九橋にかけて、首無し武者の一隊が行進したといのです。数百騎ものひづめの音がし、翌朝になると、決まって城下に数人の死者が出たといえます。いずれも口から少し血を吐き、まったく死因のわからない、いわゆる変死・怪死の類だったと伝えられています。勝家家臣団亡霊の行列と信じた福井城下の人々は、命日には、夕刻以降、町中全て戸締まりをして、誰も外に出なかったとのこと。

この伝説は、勝家が崇霊として認知され、畏怖されていたことを示すものではないでしょうか。勝家は、かつての国主、朝倉氏とその家臣団を滅ぼしたほか、北陸道総鎮守の気比神宮を焼き払い、出家衆のほとんどを滅亡させるなど、恐怖の所業を重ねてきました。人々は、死後も畏怖の存在として、鎮魂の願いを持ち続けていたのでしょう。

日本には、スサノオノミコトの祇園信仰や菅原道真の天神信仰など、崇神の霊を鎮め奉ることによって幸福を願う信仰が古くからあります。勝家もまた、その霊を鎮めようと北庄城址に現在の柴田神社の前身が建立され、祀られたのです。



柴田神社

一方で、伝説の首なし武者行列の正体は、実は、柴田家の旧臣であったという言伝えもあります。旧臣は、

普段は領民として城下に暮らし、お家再興の決意を新たにすため、毎年、甲冑姿で騎乗し行進し、その際の黒い覆面が首なしの正体だったというのです。

伝説とともに語り継がれる猛将、柴田勝家。今でも、北庄創成の神として、崇められています。

## 関連史料・ゆかりの地

### 北の庄城址・柴田公園



北庄城の遺構の上に整備された北の庄城址・柴田公園。園内には、柴田勝家、お市の銅像のほか、勝家の子孫であると言われる日本画家、平山郁夫氏揮毫による記念碑も設置されています。隣地には、勝家、お市を合祀する柴田神社が整備されています。

【住所】 福井市中央1-21-19  
(JR 福井駅より徒歩7分)

### 参考資料等

杉原丈夫編『越前若狭の伝説』松見文庫  
福井市立郷土歴史博物館編『平成18年春季特別展図録「柴田勝家—北庄に掛けた夢とプライド—」』